

日本海区水産試験研究

# 連絡ニュース

◎昭和三四年度日本海における

## 極前線とその資源調査きまる

内橋潔

日本海における極前線とその附  
近における資源の実態は、まだ十分に判明していない。この種の問題

を早急に解明したいことは、ここ数年来の希望であった。

明三四年度から、この種の予算

が認められたので、海洋学的な問題、さら

に漁業生物学的な問題や両者の関係について、調査研究を進めることになった。

日本海における極前線の形態とその消長についての関心は、今日では水試などの常識となつてゐる。またこれらの水帶とその附近水域と魚類との細密な生態的な関係についても注目されている向も多く、また当業者方面からは、沖合漁場と云うことである。

この種の調査に於いて、目下の處さらに有効適切な方法を検討中であるが、調査水域が全日本海に亘り、且つ各地先沖合水域の漁業と至人の関係をもつてゐるので、関係者の協力とともにこの種の成果を十分利用されることを願つてゐる處で、いづれ其内詳

細な点をお知らせする機会があると思う。

(日本海区水産研究所所長)

## 新正を迎えて

吉津綱人

人生わずか五十年誠にわざか五十年、五年の才月はつくづく短いなと歎きせざるをえません。この人生の終着駅を眼前に迎えた昨今、いまさら仏心を起した訳でもありませんが、じつに転人生の「あわせざ」を覚えずにはおられません。

だがしかし、その反面には、四海同凡千門皆祈、この迎春たるや、冥土の旅の一里塚とは申せ、東天の旭陽を仰ぎ見る時、遙挙したいたいなんともいえないがすがしい気持になり、心から新春を寿ぎ奉ると申し上げます。

餅をつき馳走をこしらえ魚船を片付け宴會場を作りながら、コツクとボーッイが夜通し働いて立派な正月を迎えてくれたト

ロール船上での新正、あるいは硝煙弾雨での迎春、人間は大体地球に直して暮らしているが、その地球に平行し安静臥床しながらスルメとクリとミカンの祝品で迎えた白衣の新正、朝の網起もすでに終り漁夫達も出払つてひつそりかんになつた番屋でチビリチビリ独人でやりながら元旦を寿ぎ奉った正月、凍りつくようにしんしんとふけていく北国の深夜に、あかあかと燃えているストーブを囲みながら百八煩惱の除夜の鐘も早やつきようとするころ、お宮参りかと思われるあのきしる様な雪下駄独特的音色に耳を傾けながらの迎春、このように追憶を巡つてみると、年ねん才さい違つた環境下で馬令を重ねて来た足跡だつたと申し上げても過舌でなく、まあ古人今人流れのごとしとでも申しましようか。

公転と自転を地球は間違ひなくやつているのですが、私達人間界は子供は大人に大人には老人にと苦しい回転を行い、私も全ぜん予期しない運命に従つて生活史を繰りながら生きているものの、今後どんな宿命が待ち受けているのやら、どんな運命に棹さしていかねばならないのやら皆目不明の姿を眺める時、一体何を予期し何を求めるとしているのか、醉払いに朝がきた時のようなもので、詮議してみた處で詮なきものでしよう。

「お前の命は何時刻終るぞよ」と神仏から宣告されたなら一体どうだろうか。私の脳裡もうつて変つて走馬燈のごとく所有するものが駆けめぐる事でしょう。人生に対する執着か、煩惱か、はたまた愛されことを願つてゐる處で、いづれ其内詳

## 主なる項目

第95号

- ・日本海
- ・新正を迎えて
- ・期待される水試製造部の活動
- ・新春を迎えて
- ・新春盲想
- ・魚類の集団斃死
- ・昭和34年度新潟県水試運用方針について

内橋潔 吉津綱人 野口栄三郎 下村敏源 田中正治 濱部基次 喜好後明

発行所 島代万代研究所  
新潟市日本海区水産研究所  
印刷所 第一印刷株式会社

## 期待される水試

### 製造部の活動

野口栄三郎

水産庁の機構改革に伴つて一九六〇年度には水研の機構も大きく変革されるらしい。八水研が生まれてから一〇年 日本海の漁獲物の価値の向上を計る為に水試の製造部と連絡を密にして日々成績を収げるべく努力はした積りであつたが、思うことの十分の一も果せなかつた。勿論このことは解決しなければならない問題にくらべてあまりに研究者の数が不足しておつたといふこともあるが、要は自己の努力と能力の不足を痛感することになるのかも判らぬ。しかしそれにしても各府県水試の製造担当者の協力のおかげで利用研究は如何にあるべきか、日本海における利用研究の重要性というようなことに対する認識を明らかにしたことは重要であつたよう思われる。その一例としては本年の利用担当者会議で取あげられた三つの共同研究テーマ即ち(一)鮮度保存に関する研究、(二)乾燥に関する研究、(三)原料学的調査である。

これらはいづれも業者の強い要望から発生したものではあるが、各府県水試の貧弱な施設が予算、人員で期待にそつような成績は仲々あがらないかも判らないが、協同の力で何とかやつてみよう。このような研究や指導を行わなければならない時であることを担当者が認識し、強い決心と要望によつて取あげられたことからも明らかである。

今までの一〇年間はどちらかと云えば業者の指導齊蒙とゆうよりは研究者指導者への啓蒙があつたような気がする。これから本当に日本海の漁業者や加工者が必要とする研究が力強い業者の要望と相俟つて開始され、府県水試の研究と指導とが実を結ぶのでないかと期待される。

(日本水研利用部長)

### 新春を迎えて

下村敏正

新年お芽出度うございます。昭和三十三年は、過去五カ年にわたる「対馬暖流開発調査」が有終の美を以て終るとともに、新たに「漁況海況予報調査」が始まつた第一年であります。それは

「暖流調査」の香わしい果実の上に咲きつた花でもあります。「暖流調査」かつての「予報調査」です。

予算的には大巾に減少したにもかかわらず、各水試の撃まざる御奮闘により、着実にその効果を現わしつつあることは御同慶の至りです。各水試における旬報告月報

いて、予報業務を行なうことは大いなる困難を伴うものですが、われわれは共に励まし合ひ、相談し合つて突き進みたいと思つています。ことに本年は猪年です。猪のように邁進したいと念願しています。

(日本水研開発部長)

### 新春盲想

加藤源治

日本海での水産資源研究は今後どのように展開されていかなければならぬだろうか。また、從来やつてきた研究方法はこのままではよいだろうか。われわれは國や府県局が要請する漁業施策に呼応して、乃至は漁民の衷心から訴えている声をよく反映しての水産研究でありたいと日ごろ願つてい

る者であるが、果してどの程度にこれらの要望に応えてきたであろうか。この点反省してみると、われわれは一抹の不安を感じないわけにはいかないのである。われわれはいまこそこの点に思いをいたし、最善の努力を傾けて今後の水産研究のより正しい方向つけと發展を計らなければならぬ。

(日本水研資源部長)

### 人事異動

◎青森県水試鶴川正雄技師(殖部主任)

は一月九日付を以つて退職、一月十日付を以つて京都府水產試験場長に転ず。

◎青森県水試津幡文隆技師は一月十六日付をもつて同水試増殖部主任に転ず。

ここに日本海の西部、中部、北部という三プロックが自主的に創立運営されるに至り、そこで漁況海況予報の討論研究が盛んに行われるようになつたことは、三十三年度中における刮目すべき發展と思われます。これという資料の甚だ少ない現状にお

けでなく、さらに新らしい視野に立つた研究構想を導入されなければならない段階にきています。ことに本年は猪年です。猪のよ

うに邁進したいと念願しています。これのためには各種の魚群を実際に観察する群行動、換言すれば生棲する環境内における索餌、成長、産卵、死亡といったような

研究が力強い業者の要望と相俟つて開始され、府県水試の研究と指導とが実を結ぶのでないかと期待される。

これがためには各種の魚群を実際に観察する群行動、換言すれば生棲する環境内における索餌、成長、産卵、死亡といったような研究が力強い業者の要望と相俟つて開始され、府県水試の研究と指導とが実を結ぶのでないかと期待される。

これがためには各種の魚群を実際に観察する群行動、換言すれば生棲する環境内における索餌、成長、産卵、死亡といったような

(以上青森県水試)

魚類の集団斃死

浜部基次

相川博士の水族生態学概論に次の一部がある。「低水温のために生じた有害作用が冷害である。暖水域の下層の冷水塊が急に上昇した場合には表層暖水種に斃死が起る。大洋中の島周りで起り易いが、大正十二年十月二十四日に朝鮮江原道の沿岸で、低気圧通過のため下層の冷水塊が上昇したために、表層水温が急降下し、マイワシが多量に斃死したのは著名的な冷害例である」。

そんなことに関連して岐島で何かなかつたか聴取りしてみると明瞭な集団斃死浮上現象がある。聴取りは安易な気持で簡単に取扱われやすいけれど、実はそれは旅行者の印象記みたいなもので当にならないし、担当者の好みでかなり偏向する。実は昭和二十七年六月に調査研究部長名で「魚類の集団斃死発生調査」が指令され、報告には該当なしとして処理してある。聴取り一つでも幾つかの条件がうまく焦点にあつてくれないと聴取りたいことは殆んど網の目から洩れて、上司に誤報を出すミスを犯す。そういう場合の例として集団斃死聴取りの事情をあげてみよう。

集団斃死の現場で魚を拾つた人は浦郷地区で四名、美田地区で一名いる。聴取りをしたのは平木熊太郎氏通称「平岡の爺」約七十五才である。「三十年も四十年も昔ワカメを刈りか、海苔をつかみに国賀に行つた時ですかね春、春もかなり遅い時分だつたろう。魚の浮いとるのを拾つた。自分と

島崎と道前の三人で国賀へワカメ刈りか海南に赴つたが波が高いのでカナギを断念し、その前日船越の奥板屋がイザナギ浜の藻莢拾いで、レンコダイ・クロダイ・イシダイなど約三〇〇貫を拾った話について國賀外浜の浮魚があるかもしれない相談し、船を下るして波浪の高い外浜に漕ぎ出した。国賀浜の東の突端サカイガサキを廻つて神島前を通りナカダ沖に出る(距岸五〇〇m、一〇〇〇m)と沖の波間にマダイが一枚浮いている。彼処へ一枚、此処へ一枚点々と浮上しているが波が高いので拾いにくい。ヤスで突いて船に取上げたが突いたタチからは空気が放出されるのが見られた。魚は弱り切つて鰓をかすかに動かし尾鰭尾柄をちよつと動かす程度で跳ねる等の活潑さはなかつた。浮上魚はマダイの二貫目、イサキ八〇〇匁と一貫目など普通にみられぬ大型魚が多く、マダイは平均して三〇〇匁級が揃つていた。島崎は神島附近で十五貫、平岡と道前の二人組はナカダ沖、神島附近で二四貫、他の者一三貫と船上者のみ拾得し陸上で待期したものは一尾も拾わなかつた」とある。爺サンの三十年も四十年も昔では漢として捉えどころがない。そこで島崎老婦人に尋ねてみたら「あれはなんでも長男の清の誕生祝で、魚を取りにお父さんが国賀に行つて、それで浮いた魚を拾つたんです」と言う。戸籍でしらべると清氏は大正十五年四月十九日生だから翌年の昭和二年四月十九日がお誕生祝の日ということになる。そこでやつと縋めがつく。

隱岐島島前北側海岸一帯にマダイ・クロダイ・イ・サキ・アラ・シシダイ・レンコダイ等の磯魚が集団餌死浮上した。浮上現場は中ノ島北側では西から東へ移り十八日には船引運河から外海へ出車に向つた第一湾入部に各種混合浮上群が低気圧の強風により約三〇貫陸上に打ち上げられた。十九日には東へ移り国賀外浜の島礁渦流域で混合魚群約五〇貫が船で拾得され、陸岸には打上らなかつた。浮上現象は十八・十九日

で終つた。十八日に強風があり十九日も波が高かつたのは低気圧の通過直後で、マダイの凍死水温は $-10^{\circ}\text{C}$ 以下とされているから、 $-10^{\circ}\text{C}$ 以下の日本海固有冷水塊が急上昇したのである。魚は斃死状態であつたが鮮度良く充分に食用になるもので市場に出荷された。

魚

探

ぶことが生産的な仕事と同様近代的な人生における大仕事であるから、その方法、場所、時間等について、こゝに詳説する。

る。 な仕事と本質的には、等価的に見なくてはならないと云う処にまで人間の文化が漸くにして到達しているのが現代であ

遊びを好み、口下手でも、口が上手いから、  
ら、健康的で、明朗活達であり、且つ節  
度のある遊びなら、それは人生における  
大きな仕事である。そしてそれは生産的

に通するもので、言う處の遊びとかレク  
リエーションなどと云うのとは縁遠い。

然とした理由もない。どちらの言葉を用いてもその内容はたいした違ひがない。

かつて一般に遊びと云つていたものと、いまレクリエーションと云つているものの間に形式や内容においてそう開きがあるとは思えない。今はむしろレクリエーションの名にかくれて、一般に遊びの方法や内容が下劣低級化している面もある。こんな状態だから遊びならいけないが、レクリエーションならよいと云う調子

う言葉をそのまま借用している風に見える。かつて一般に遊びと云つていたもの、いまレクリエーションと云つている。

近頃と云つたらよいのか、それとも近代と云つたらよいのか、兎角今の世代では遊ぶことが大流行である。

なつてしまふのである。  
かつて白眼視された札おそびやマージ  
ヤンなどを正々堂々とレクリエーション  
の名に倣させるようにするのは、各人の  
自主的かつ文化的な感覚とその所産に  
よるものであつて、レクリエーションの  
名によつてゐるのでない。

## 昭和三十四年度

## 新潟県水試運用の方針について

後 明 喜 好

(4) 県外 出漁  
漁閉期の動力漁船並びに最近増加した余  
刺漁船を県外有望漁場へ進出せしむるため  
対象魚種、漁法、漁場等の調査をする。

(5) 遠洋漁業  
国際情勢の変遷を考慮に入れ、遠洋進出  
列調整を指導する。とくに沿海州漁  
場開発に主力を注ぐ。

(6) 漁船の改善充実  
現在動力船は一、九六二隻あるが、大部  
分は五屯未満の小型漁船である。最近、沖  
合県外遠洋等の漁業の進展に伴い中型大型  
化を必要とし新造するものが多くなつてき  
たので、これが建造に当つては、適格標準  
型の漁業の特性を加味し、無線、魚群探  
知機、方向探知機等最近の科学機器の裝備  
を奨め、質的向上を計り、操業上の簡易化  
と漁業資材の節約を講ずるよう指導する。

(7) 水質保護調査  
従来、一時多獲漁で鮮魚のまま至極安値  
にたたかれ移出された魚種の簡易加工の研  
究と販路の調査に主力を注ぎ、魚価の維持  
と生産の向上を計る。とくに最近多獲の傾  
向にあるイカ、小鱈、小鰯等の第一次加工  
の研究を取あげる。

(8) 水産物加工  
なお現在加工行程中に生ずる頭骨腸  
汁等の廃棄物及び海母の利用研究をなす。  
輸出水産加工品に対しても海外市況とに  
らみあわせ指導を行う。(新潟県水試場長)  
の研究を取あげる。

(9) 水質保護調査  
内水面については、調査研究に平行し実  
地指導をなすとともに、優良稚仔の生産分  
割及び幹旋をなす。

## 機 構

本場(六名)——庶務会計室

技術係

試験研究科——漁業試験係

試験指導船(銀山丸)

新潟出張所——小型調査指導船(海光)

調査普及科——普及及指導係

佐渡分場(七名)

庶務

阿賀野川養殖場(三名)

佐渡分場(七名)

試験研究科——技術係

試験指導船(銀山丸)

新潟出張所——漁業試験係

## 場長

## (1) 運営方針

## (2) 浅海増殖

## (3) 沿岸漁業

## (4) 冲合漁業

## (5) 水質保護調査

## (6) 水産物加工

## (7) 水質保護調査

## (8) 水質保護調査

## (9) 内水面増殖

本場は明治三十六年以降三島郡寺泊町に  
存続されているが、時代の変遷に伴い現位  
置では試験機關の活動並びに漁民との連絡  
上不便が多いため、三月末までに新潟市沼  
垂町大字竜ヶ島(新潟市管轄魚場敷地内)  
に移転し新潟出張所を廃止する予定であ  
る。

(1) 運営方針

本場の沿岸には有用浅海生物が相当分布  
棲息しているので、稚魚の保護はもちろん、  
鮑、牡蠣、采螺、沖蠣等の貝類、岩海  
苔、天草、恵古、若荀、もづく等の海藻  
類、海扇等は繁殖保護と増殖施設の研究指  
導により増産を計る。ことに漁撈技術  
は研究組合の育成強化と相俟つて改良普及  
し、共同經營に重点を置き、各種漁業の綜  
合調整の研究を行う。

(2) 沿岸漁業

本釣等の漁業は沿岸魚族の繁殖施設、人工  
魚礁、資源維持、害敵駆除、漁具、漁法の研  
究指導により増産を計る。ことに漁撈技術  
は研究組合の育成強化と相俟つて改良普及  
し、共同經營に重点を置き、各種漁業の綜  
合調整の研究を行う。

(3) 冲合漁業

洞游魚と深海魚は、本県沖においては暖  
寒性の種々の魚族をみるので、洞游に対する  
基礎的調査研究はもちろん散在する天然  
魚礁の開發に努力する。とくに対馬暖流  
前線の開発に主眼ををおき、適格なる漁具漁  
法を指導し稼動漁船の増加を計る。

(4) 水質保護調査

接縫漁民の収入となり、しかも移輸出水  
産物の対象となる牡蠣、海扇、鮑、天草、  
若荀の増産に重点を置く。

(5) 水産物加工

機船底曳網、各種延繩、刺網類、旋網類、  
敷網類、船曳網類等の漁業は冲合漁場の開  
発と相まって順次好適漁場に誘導し進出せ  
る。

(6) 水質保護調査

内水面については、調査研究に平行し実  
地指導をなすとともに、優良稚仔の生産分  
割及び幹旋をなす。

(7) 水質保護調査

日本海区水産研究の成果も年とともにあ  
がつきましたが、本年も着実な歩みを続  
けられますよう、編集委員一同、皆様の御  
健斗を心からお祈りいたします。

後記